

新聞の魅力

午前三時四十分、蒸し暑くて目が覚めた。

まだ重い体を無理矢理起こして窓を開ける。

外からは生暖かい風と、ガチャンと家のホース

トが聞く音。二人な時間に何だろうと不信に

思ったが、耳に新聞が投函される音だと気が

づく。暑い暑いと丈句を言いながらベツトに

横になつて、ふと思つた。テレビヤインター

ネツトで簡単に情報を得るにせよ、ボでさるこの

時代に、どろろと母はわぶわぶ新聞をとって

いろのだらうかと。

疑問に思つた私は、まず母に話を聞いた。

すると母は、三世の中で起きていることを知

る為。あと番組表を見たいし、と言ひ、その手

洗濯物を干しに行つてしまつた。期待して

いたような答えはもがえず、結局何もわから

なかつたので、私は実際に毎朝新聞を読んで

みることにした。それまで、たたく新聞を

ん。でいなか。た私は、得られる情報量に驚か
た。それまでテレビが情報源だ。た私は、好
まな芸能人や天気予報など、自分の興味があ
る情報だけを得てきた。その他の情報は、何
の意味ももたない。ただの音として私の耳を
り振け、言葉として脳に伝達されることには
か。たのだ。しかし新聞は違う。情報が音で
はなく文字で表されていゝる為、読むという作
業をせなくてはならない。ただ聞いただけで
音を聞くのではなく、自分の意思で文字を読
みこ。とで、必然的に情報が脳に伝達されて
く。新聞を読む、そんな簡単なことだけで、
私の世界は大きく広がった。また、新
聞を読むようにな。てから、母との会話が
え。た。と。思。う。お互いに携帯を触。てい
る。こ。と。が。多。く、会。話。す。る。の。は。ほ。と。ん。ど。夕。食。の。と。き。だ
け。だ。つ。た。仲。が。悪。い。誤。り。は。な。く、母。と。合。う。話
題。が。な。か。つ。た。か。ら。だ。レ。か。し。新。聞。を。読。む。よ。う
に。な。り、私。の。情。報。量。が。増。え。た。こ。と。に。よ。つ。て、
母。と。合。う。話。題。も。増。え。た。テ。レ。ビ。で。は。あ。ま。り。放

送られない富山県の情報もたくさん載って
るので、富山県で起きたことと話題にする
と面白い。すると、富山県の良さもわかるよ
うになり、だんだんと富山が好きになる。今
では富山が大好きだ。

実際に新聞を読むことで、今まで気づけ
なかつた新聞の良さに気づくことができた。
たくさんの情報を得ることで、気づけるのは
うん、コミニケーションのきっかけにもな
るし、地元の魅力を知ることもできる。私は

これかが、この新聞ならではの良さを、も
とたくさんの人に広めていけたらいいなと思
う。

午前三時四十分、ガキオンレポートが聞
音が来る。今日はいったいどんな情報も届
てくれるのだろうか。